

## 1. 学校名

三原市立木原小学校

## 2. 活動テーマ名

スナメリプロジェクト

## 3. 実践の概要・ねらい

三原市立木原小学校は、広島県三原市と尾道市の境にあり、瀬戸内海沿岸にあります。豊かな海と美しい景色、そしてそこに住む温かい人たちによって発展してきた魅力あふれる地域です。

この木原沖（学校のすぐ目の前）に2つの島「大鯨島」と「小鯨島」があり、かつて40年前には「スナメリ」がすんでいました。今は見られなくなってしまったスナメリをもう一度この木原に呼び戻したいという願いのもと、平成27年度に「スナメリプロジェクト」を立ち上げ、学習を進めています。

木原小学校の児童は海の近くに住んでいるにもかかわらず、海での体験や海の知識がほとんどありません。海辺は護岸コンクリートで覆われ、児童にとって海は遊ぶところではないからです。そこで、プロジェクトを進めていく上で、児童が海に対して興味をもち、親しみを感じ、学びたいという気持ちを育てることが大切であると考えました。また、プロジェクトを継続させていくために、全校児童や地域へ学習の成果を発信し、学校の宝・地域の宝にしていく必要があると考えました。

以上から、「スナメリを木原の海に戻す」ために、「木原の海を豊かにする」という目標を立て、①木原の海を調べる（鯨島調査）、②海のゆりかごとと言われるアマモを増やす、③海の達人（海に携わっている人）への聞き取り・活動成果の発信の3つの活動を主として学習を進めています。

## 4. 実践計画

### ①活動計画

#### (1) 木原の海を調べる（鯨島調査）

- ・春、夏、秋、冬季節ごとに水質と生物の調査をする。
- ・鯨島に3つの調査地点を決め、どんな生物がどれくらいいるのか調査する。
- ・調査結果を比較、分析し、今後の活動につなげる。
- ★今年度から「コドロード法」で生物調査を行う。

#### (2) アマモの栽培、植え付け

- ・春にアマモの種子を鯨島に植える。
- ・夏にアマモの種子を採取し、秋に種子選別をする。
- ・学校の水槽で苗を育てる。

#### (3) 海の達人への聞き取り

- ・瀬戸内海エコツアーリズム協議会 上嶋先生から瀬戸内海やスナメリについて学ぶ。

#### (4) 活動の発信

- ・学習発表会（11月）に地域や全校へ活動報告をする。
- ・全校朝会（2月）に全校へこれまでの活動について紙芝居で伝える。

### ②実践の評価について

- ・鯨島調査の蓄積
- ・活動をまとめたもの等の成果物（アマモの1年、活動についての紙芝居）

## 5. 今年度の実践

### (1) 木原の海を調べる (鯨島調査)

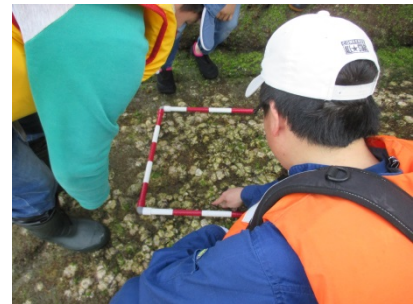
木原の海はどんな海であるのかを知るために、大鯨島に3つのモニタリングポイントを設定し、季節ごとに生物調査をしています。また、船上での水質調査を行っています。

生物調査では、今年度から「コドロード法」で行いました。一辺50cmの正方形の中に、どんな生物がどれだけの割合で生息しているのかを記録します。記録したことをもとに、マップや表、円グラフにまとめます。

水質調査では、船上から透明度板を海へ降ろし、海の透明度を調べます。また、採水器を海へ降ろし、海底の海を採取し、塩分濃度やCOD（化学的酸素消費量）、水温を調べます。

モニタリングポイントを決め、定期的に生物・水質調査を進めることで、木原の海の特徴を知り、新たな課題発見へとつなげていきます。

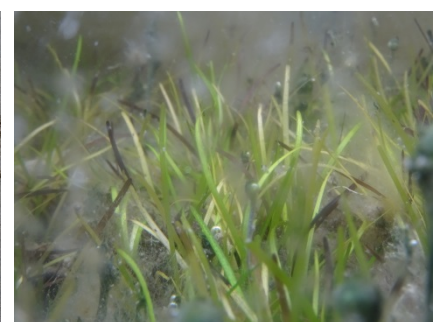
鯨島調査は、瀬戸内海エコツアーリズム協議会のご指導のもと、三原市漁業協同組合のご協力のもと行っています。



### (2) アマモを増やす (アマモの苗づくり)

「海のゆりかご」と呼ばれ、海の生物のすみかとなり、海の水質を向上させる「アマモ」の苗を育て、大鯨島に植える活動をしています。児童は、アマモを増やすことで、スナメリの餌となる海の生物を増やし、水質の改善を図ることができ、その結果スナメリが戻ってくると考えました。

初夏の6月ごろに、アマモの種取りをします。採取したものを約3ヶ月間、海につけて葉を腐らせます。秋（9月下旬～10月）に、良い種子を選別し、苗床をつくります。人工海水につけ、苗を育てます。春（4月）に育てた苗を植えます。1年を通して、アマモの苗づくりをします。



### (3) 海の達人 (海に携わっている人) への聞き取り

瀬戸内海エコツアーリズム協議会の上嶋先生 (外部講師) に瀬戸内海やスナメリについて教えていただきました。

瀬戸内海やスナメリの特徴について知りました。



#### (4) 活動の発信

学習発表会では、これまでの学習をプレゼンテーションソフトでまとめ、発表をしました。全校や地域へ発信しました。また、2月には、これまでの学習を紙芝居にまとめ、全校へ発表をしました。



#### 6. 成果と課題

- 海に対する興味、関心を高めることができた。海の生物の名前や特徴を調べて覚えたり、調査方法・アマモの栽培方法が理解できたりした。
- 学習を下級生へつないだり、地域へ発信したりすることで、学校の宝・地域の宝になってきている。
- 調査データが蓄積しており、比較分析ができるようになってきた。
- スナメリの目撃情報があった。アマモ栽培が直接的な原因ではないと思うが、児童にとって喜ばしい出来事であった。
- 平成30年7月の西日本豪雨により、夏休みに行く予定だった周防大島のスナメリ学習ができなかった。また、様々な海の達人への聞き取りができなかった。
- 鯨島へ行くために船を借りなければならず、多額の資金が必要で、助成金に頼っている。3つの活動を継続して取り組み、データを蓄積し、整理・分析をすることで、学習の深化を図っていききたい。また、同じような海洋教育をしている学校との交流・連携をし、学習につなげていききたい。さらに、地域の宝として地域に根差した活動になるように地域連携を図っていききたい。

#### 7. 主な連携機関及び内容

- ・NPO 瀬戸内海エコツアーリズム協議会…調査, アマモ栽培指導
- ・三原市漁業協同組合…調査のための船の借用
- ・三原市管財課…鯨島の調査許可